

様式(7)

報告番号	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">甲 保</div> 第 11 号 乙 保
論文内容要旨	
氏 名	木野 綾子
題 目	Different levels of awareness and knowledge of male climacteric in female nurses and female office workers (女性看護師と女性事務職における男性更年期障害の認識および知識に関する違い)
<p>【目的】 男性更年期障害に関する認識や知識のレベルは国によって異なる。本邦ではマスメディアを通して徐々に認識されてきているが充分ではなく、認識や知識に関する検討はほとんど行われていない。そこで、本邦女性が男性更年期障害をどの程度認識し、知識を有しているか、その実態を把握し、看護職と看護職以外の職種（事務職）の女性における認識の差異や女性更年期障害の経験や治療の有無による差異、男性更年期障害への対応に関する考え方について検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 20歳から65歳の女性看護師と女性事務職員2800人を対象にして、男性更年期障害についての認識や知識に関して質問紙調査を実施した。その内容は、①被調査者の基本属性 ②女性の更年期障害に関する知識 ③被調査者自身の更年期障害に関する項目 ④男性更年期障害の内容や治療に関する知識および対応に関する考え方に関する項目の4つとした。</p> <p>【結果】 回収率は78.5%で有効回答率は75.0%であった。看護師831人、事務職員819人のうち男性更年期障害を知っていると答えたのは、看護師は73.5%、事務職員は68.9%であり、看護師の方が有意に($p=0.039$)高かった。女性更年期障害を経験したことがある割合は全体の30%に認められ、更年期障害を経験したことがある女性は経験したことがない女性に比べて男性更年期障害を知っていた($p<0.001$)。なお、更年期障害の治療経験の有無による差はみられなかった。男性更年期障害の症状に関して看護師、事務職員いずれも「抑うつ気分」「易刺激性」「神経過敏」「睡眠障害」といった症状については男性更年期障害と認識していた。「性的能力の衰え」「早朝勃起の低下」「性欲の低下」に関しては男性更年期障害の症状と認識している割合は看護職、事務職員共に低かった。さらに、過去または現在更年期障害を経験している女性では男性更年期障害について共感できる割合が高かった。</p> <p>【考察】 海外、国内を通して男性更年期障害に関する調査は、女性に対してほとんど行われていない。今回の検討から、本邦における男性更年期障害の認識のレベルは比較的高いといえる。しかし、認識や知識のレベルは一樣ではなく、看護師や更年期障害の経験のある女性で比較的高かった。また、症状や治療に関する理解は充分ではないことがわかり、正確な情報を伝えていくことが必要であると思われた。女性更年期障害と同様に男性更年期障害が社会で広く認識されるには、男性更年期障害に十分な理解をもった女性を対象に教育していくことが必要ではないかと考える。</p> <p>【結論】 更年期症状を体験している看護師は、男性更年期障害をより認識していた。これらの看護師を通して教育活動をすすめることは、男性更年期障害を社会に普及させる上で重要であると考えられる。</p>	